



「ナラ枯れ」にご注意！！



I. 「ナラ枯れ」とは？

「ナラ枯れ※」は、ナラ・シイ・カシなどのブナ科樹木（どんぐりの木）が枯れる森林被害です。

枯れる原因は、病原菌のまん延によるものであり、その病原菌を媒介する昆虫によって、次々と伝染していきます。

病原菌は、「ラファエレア菌（通称：ナラ菌）」と呼ばれる糸状菌（カビ）の仲間で、カシノナガクイムシ（以下「カシナガ」）という虫が媒介しています。

カシナガのメスの背中（前胸背）には、“菌のう”という菌を貯蔵する器官があり、この“菌のう”にナラ菌を入れて、被害木から健全木へと移ります。

放置しても自然に被害は終息しないため、貴重な地域の巨樹・巨木や広葉樹資源の保全という観点からも、被害拡大防止に努めることがとても重要です。

このように、ナラ枯れを引き起こすカシナガは、「森林病虫害等防除法」で駆除すべき害虫として指定されています。

※正式名称：ブナ科樹木萎凋病



II. カシノナガクイムシ

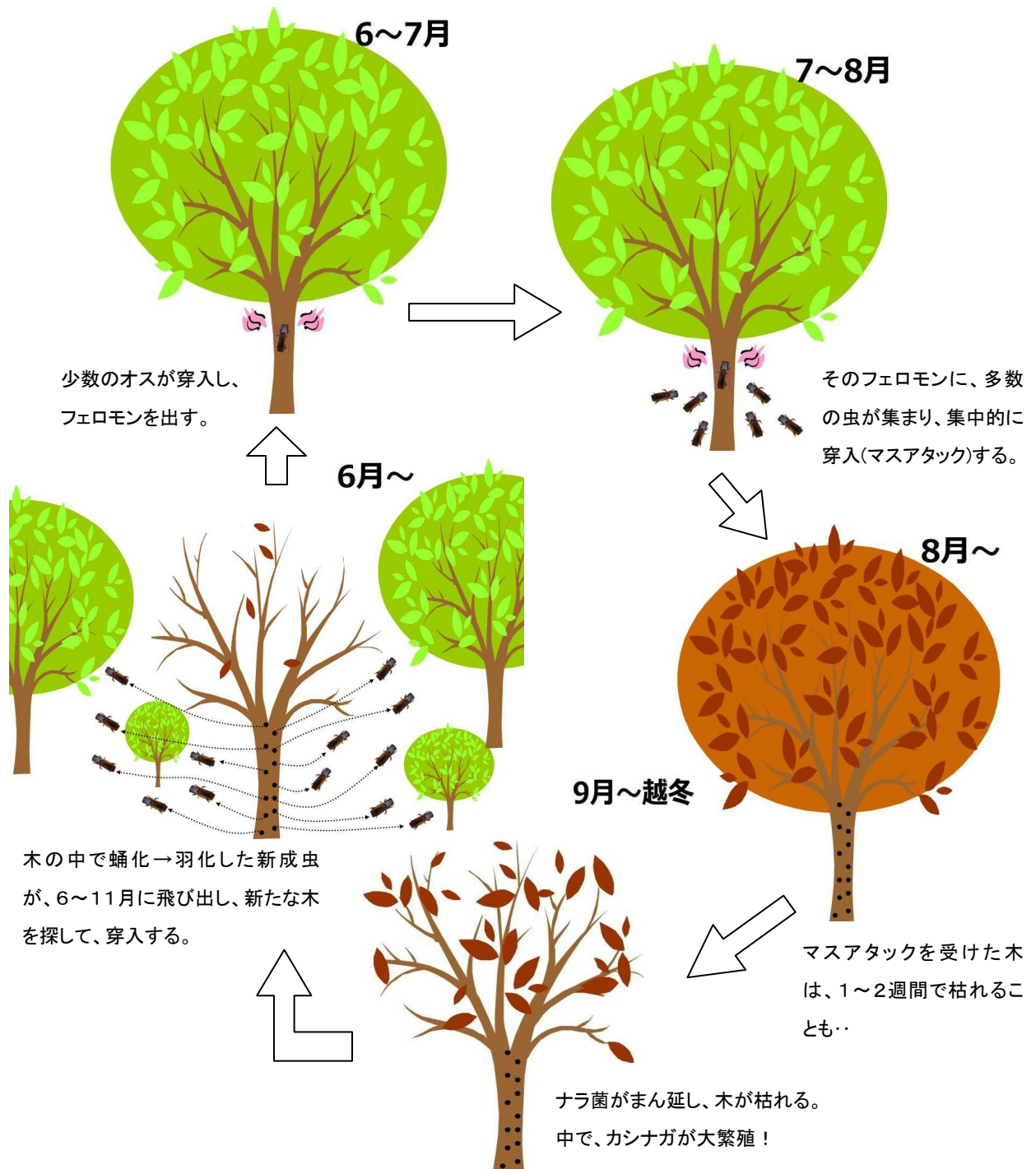
■カシノナガクイムシとは

カシナガは、体長 4.3mm～4.7mm のとても小さな虫です。

ナラやカシ、シイなどブナ科樹木（どんぐりの木）の中でナラ菌を増やし、その菌を食べて、一生を過ごします。



■カシナガの一生



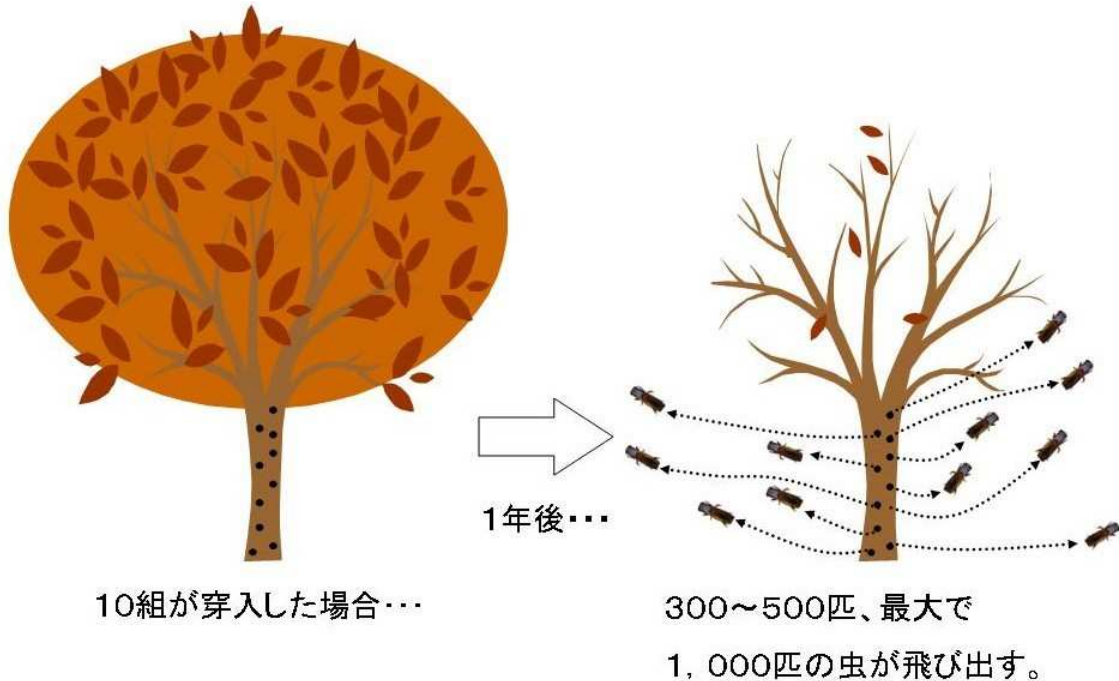
■カシナガの繁殖力

カシナガは、ハチやアリに近い生活を営み、親が幼虫を育てています。

そして、最初に育った幼虫は、次に生まれた幼虫を育てます。

つまり、長男・長女が次男・次女を世話し、そして、次々に生まれる三男・三女、四男・四女も世話をしていくので、一組の親から30～50匹、多くて100匹の子どもが生まれるといわれています。

このように繁殖力が非常に強いため、一気に被害が拡大します。



Ⅱ. ナラ枯れの特徴

■ 8月なのに葉が変色している！

8月以降に、葉が紅葉しているような木を見つけたら、カシナガによって枯れた木かもしれないので、「怪しい」と考えてください。



ただし、“干害”など他の原因で枯れている場合もあるため、目視のみで判断する事は非常に困難です。

枯れている木を見つけたら、まず、その場所の林内調査を行うことが重要です。

■木の根元や幹からフラスが出ている！

“フラス”とは、木屑とカシナガの排泄物が混ざったものです。

カシナガの穿孔を受けた木は、フラスが根元に蓄積し、幹からフラスが垂れており、これがナラ枯れの一番の特徴です。



ただし、被害を受けた樹種によっては、フラスではなく、樹液が多く出る場合があります。



■幹に直径 2mm ほどの小さな穴がある！

カシナガの穿孔を受けた木の幹には、直径 2mm ほどの小さな穴が空いています。ちょうど爪楊枝の先（約 5mm）が入るくらいの大きさです。



■カシナガの移動距離

カシナガの移動距離は、概ね2～3 kmといわれています。

また、風に乗ると9 kmも移動するという記録もあり、特に海岸線は風の影響も強い
ため、内陸より被害の拡大スピードが速いとも言われています。

Ⅲ. ナラ枯れが及ぼす悪影響

■森林の公益的機能や貴重な広葉樹資源が危ない！

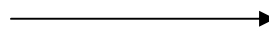
ナラ枯れが、森林全体に広がると、災害防止など森林が有する公益的機能が発揮でき
ません。

また、貴重な広葉樹資源であるキノコ原木や薪、炭などの利用にも支障が出てきま
す。

そして、枯れた木は、翌年、ナラ菌がまん延し、ボロボロに腐るため、近くにある
家屋や道路の危険木となるおそれがあるので、生活環境への悪影響が懸念されます。



枯損木「当年」



枯損木「翌年」



カシナガが穿孔した木の中身。

■巨樹・巨木が危ない！

地域のシンボリックな巨樹・巨木や文化的価値のある樹木が被害を受けます。

特に高齢木は、病害虫など外的ストレスに敏感なため、枯死する可能性が非常に高いので、地域住民が危機感を持つことが大切です。

同じく、貴重なナラ・カシ類の植物群落も被害を受け、枯れる可能性があります。



IV. ナラ枯れ被害を防ぐために…

■地域住民の皆さまへ

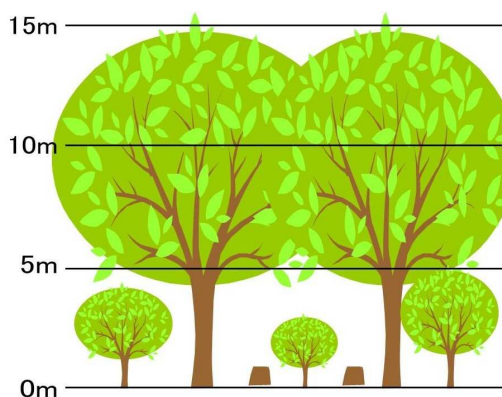
ナラ枯れを見つけたら、最寄りの振興局林務課または県庁森林整備課まで情報をご提供ください。

早期発見が早期対策に繋がり、延いては、地域のシンボルツリーや文化的価値のある樹木、貴重な広葉樹資源を守ることに繋がります。

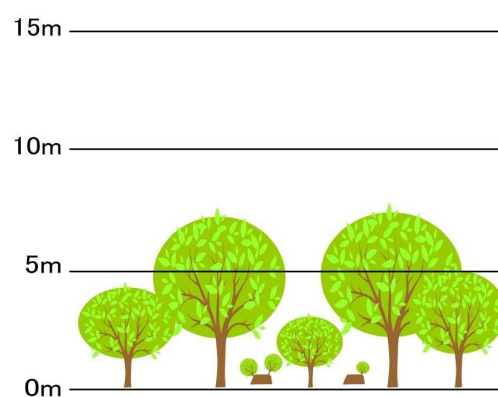
■森林ボランティア団体の皆さまへ

ナラ枯れに備えた里山整備・森林整備を行ってください。

カシナガは、“開かれた空間の大径木”を好むため、大径木を伐採し、萌芽更新による森林の若返り化を図ることで、被害を未然に防ぐ効果が期待できます。



(カシナガが好む環境)



(カシナガが好まない環境)

■ナラ枯れ被害木の処理

「伐採処理※」

被害木を発見したら、伐採→焼却・破碎するように努めてください。

なお、伐採の際は、地際で伐るようにし、切株を低くすることが重要です。

また、地上高 1.5m～2.0m の位置で、高切りした状態で切り株を残すと、カシナガの繁殖を助長する可能性があります。



また、根株の中にカシナガが残っている場合もありますので、被害木の根株に切り込みを入れるなどの処置も1つの防除方法です。

※被害木の伐採処理は、カシナガの移動が終わる11月下旬から5月までの間の実施が望ましいです。

「粘着シート」

被害木が伐採できない場合は、粘着シートによる防除方法も有効です。

実施方法としては、“被害を受けた木” からカシナガが飛び出さないよう、粘着面を内側にします。



【情報提供のお願い】

ナラ枯れ被害を見つけたら、最寄りの振興局林務課または県庁森林整備課までお知らせください。